

2018 年度

【講演】

1. 村岡法彦. 指導下での運動療法. 日韓合同シンポジウム. 第 8 回日本がんリハビリテーション研究会 2018.12 札幌市.
2. 村岡法彦. 地域がんチーム医療の実際 がん患者へのリハビリテーションの役割. H30 年度地域がんチーム医療プロフェッショナル養成コース地域がんチーム医療ビルディングセミナー 2019.2 旭川市
3. 村岡法彦. がんリハビリテーションの概要. 旭川緩和ケアネットワーク第 27 回定例会一般講演. 2019.3 旭川市
4. 塚田鉄平. 運動でフレイルを予防しよう. 令和元年度 函館視力障害センター 市民公開講座 2018.8 函館市
5. 塚田鉄平. 障がい者スポーツの現場で生かせる評価と治療. 令和元年度 函館視力障害センター卒後特別研修会. 2018.8 函館市
6. 塚田鉄平. 在宅での呼吸リハビリテーション～スクウィーピング～. 訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修. 2018.8 旭川市
7. 佐藤弘也. CLI の歩行と運動療法—様々な視点から—. 特別講演 「歩く」を考える. 第 15 回日本下肢救済・足病学会 北海道地方会学術集会 2018.12 札幌市.
8. 田中伸吾. 今さら聞けない介助法・支援の仕方. 障がい者スポーツ指導者全道研修会. 2019.2 旭川市

【査読付き論文】

田中伸吾, 呂隆徳, 春名弘一, 小原和宏, 大田哲生. 車いすフェンシングにおける手すりの有無や高さの違いが攻撃時の身体の最大距離と速さに及ぼす影響. バイオメカニズム 24, 181-189, 2018

【学会発表】

1. 呂隆徳, 伊達歩, 勝海孝臣, 早坂太希, 堀内至, 本谷光咲子, 長谷部直幸, 大田哲生. 心臓リハビリテーション患者における栄養状態と筋力および骨格筋量の関係. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (横浜)
2. 呂隆徳. 当院における長期ボツリヌス療法継続患者の経過報告. 第 10 回旭川脳卒中地域連携研究会
3. 早坂太希, 伊達歩, 堀内至, 本谷光咲子, 藁島暁帆, 坂本央, 長谷部直幸, 勝海孝臣, 呂隆徳, 大田哲生. 高度デコンディショニングを呈した肥大型心筋症に対する心臓リハビリテーションの一例. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (横浜)
4. 佐藤弘也, 呂隆徳, 齋藤司, 及川欧, 東信良, 大田哲生. 下肢急性動脈閉塞症により広範な組織欠損と重度左下肢機能障害を伴ったが下肢救済し、歩行が自立した一症例. 第 10 回

日本下肢救済・足病学会学術集会. 2018.7. 札幌市

5. 岡村綾子, 村岡法彦, 呂隆徳, 角井俊幸, 及川欧, 大田哲生. 歩行自立から車いす介助移動に陥った大腿骨骨肉腫切断児の一例～親子の心理的葛藤とリハビリ取り組みの限界. 第 8 回日本がんリハビリテーション研究会 (口述発表) 2018.12. 札幌市

6. 岡村綾子, 呂隆徳, 角井俊幸, 及川欧, 大田哲生, 古川博之. 小児生体部分肝移植患者に対する術前からのリハビリテーションの関わり～チーム医療連携について～. 第 34 回日本肝移植研究会 2016.8. 旭川市

7. 高山拓也, 呂隆徳, 村岡法彦, 高橋裕之, 大谷将秀, 谷誓良, 松野直徒, 古川博之, 大田哲生, サルコペニアを合併した消化器がん患者の術後惣樹離床と在院日数との関係. 2021.10.20, 福岡市

8. 高橋夢子, 村岡法彦, 呂隆徳, 高山拓也, 大田哲生. 急性期病院における術後膠芽腫患者の転帰先に影響する因子の検討. 第 16 回日本神経理学療法学会学術大会 (第 53 回日本理学療法学会学術大会). 2018.11 大阪市

9. 細谷菜々望, 佐藤弘也, 呂隆徳, 大田哲夫. CLI に対するバイパス術, 第 1 趾切断術後に歩行再獲得を目標に理学療法を実施した一症例. 第 2 回道北理学療法学会学術大会. 旭川市

10. 田中団, 角井俊幸, 村田絵吏, 野地実良久, 大田哲生. 急性期脳卒中片麻痺上肢に対する随意運動介助型電気刺激装置の効果. 第 52 回日本作業療法学会. 2018.9 名古屋

11. 田中団. 急性期脳卒中片麻痺上肢に対する電気刺激療法の効果. 第 10 回旭川脳卒中地域連携研究会. 2018.8 旭川市

12. 村田絵吏. 頸部郭清術後の頭頸部がん患者における頸部の機能障害が QOL に及ぼす影響. 第 7 回日本がんリハビリテーション研究会. 2018.3. 兵庫県

13. 八木橋史佳, 林圭輔, 齋藤司, 角井俊幸, 福山秀青, 志子田未央, 中澤肇, 及川欧, 大田哲生. 左後頭葉後下部領域の脳腫瘍により漢字の失書を呈した 1 例. 第 19 回日本言語聴覚学会. 2018.6. 富山市.